

'54MODELのVシェイプをパーフェクトに再現。ヘッドストックは丸味をおびたやわらかな仕上げだ!!

このコンスタイルは、1953年にLeo FenderがチューブアンプのFreddy Tavaresの協力を得て最初に制作した時以来2年だけ生産されたエボクタイムマシンネックをパーフェクトに再現したのだ。

ヘッドストック裏は、面取りを完全に施した丸味のある仕上げ、裏のネックも面取り加工し全体的に丸味をおびているのが特徴だ。また、ネックシェイプは1950年代の標準位置をセンター3/8インチにずらしたところまで完璧に再現。そのグリップ感覚は、内外プロミュージシャンの絶賛を浴びている。

大胆にカットされたオールドシェイプ、CONFORT CONTOURED BODY

プレイヤーの身体にフィットする、大胆にカットされたトップ、バック。これら1953年にLeo Fenderによって設計されたComfort Contoured Bodyが、RSTにはオールドシェイプを忠実に再現したモデルシェイプの再現にあたっては、特にセレクトした1954年のモデルを参考にした。ハンドクラフトの真髄を發揮したオールドフェットシェイプのネックは、ミュージシャンの身体と一体となりリズムズンプレイを約束して作られた。

オールドレモロシステムは、なんと欲だけで作られていた。

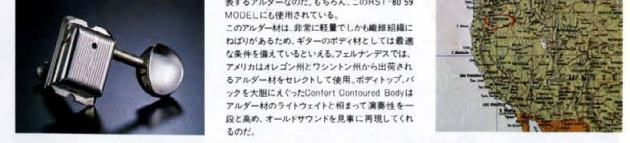
オールドサウンドのネックというものが、このコンクロナイズト木だ。Leo Fenderの厳密な計算により設計されたストラト用コンクロナイズト木は、驚くべきスピード、しかもボールが滑る極めた時のものは、すべて試みで行われていたのだ。RST-80は、Leo Fenderの設計がリレーを忠実に受け継いだ。ユニット制作の基本である組み立て、形状、構造、加工プロセスに至るまで完璧に再現したのだ。

20年以上の時を超えて、オールドサウンドを復活させたヴィンテージピックアップ

'54MODELを中心としたオールドサウンドを現代に蘇らせるために開発されたReval Vintage P.U.、FENDER P.U.は、現在までに大きく3回リデザインされているが、RSTにはLeo Fenderが最初の手がけたストラトタイプのP.U.を参考にしている。

オールドサウンドとは、20年以上の時を経たオールドだけが持つサウンドであり、それはP.U.の微妙な経年変化がボディ、ネックとのマッチングでサウンドは作られてきたとされている。そこで、RST P.U.には素材(1/4インチ厚のアルミ合金のアルミワイヤー、アルニコポールピースを採用)、コイルアンダ、橋、アルダー単板のCONFORT CONTOURED BODYでなきゃオールドサウンドは再現できない!!

成等も徹底的に追求したうえでボディ、ネックのピックアップを考案して設計している。



個性的サウンド!ローズ・フラットラミネート・フィンガーボードを持つ'59MODEL

この'59年を中心としたモデルで、Leo Fenderは始めてローズ・フィンガーボードネックを設計した。薄手のローズ指板とメイプルネックをフラットにラミネートした1950年代のネックだ。フルボディタイプでは1950年代の後に生産された製品の中から特にセレクトしたものを参考にパーフェクトに再現。Leo Fenderが愛用する'58MODELのローズネックサウンド、Uシェイプネックを見事にリバイバルさせた。

ローズの1/4インチリアチャンネル・セッティングは、はるかに上からセット。'54MODELのようなネックバッキングのローズストライプやヘッドストック部のローズポイントは、このモデルにはない。